

第44回水の週間実施報告書



令和2年12月

水の週間実行委員会

第 44 回水の週間中央行事は、後援機関及び協賛団体の

皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

水循環政策本部	国土交通省	東京都
水の週間実行委員会		

後援機関

文部科学省	厚生労働省	農林水産省
経済産業省	環境省	独立行政法人 水資源機構
公益財団法人 日本科学技術振興財団	日本放送協会	一般社団法人 日本新聞協会

協賛団体（五十音順）

公益財団法人 河川財団	一般財団法人 河川情報センター	一般社団法人 建設広報協会
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会	一般財団法人 国土技術研究センター	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター
一般財団法人 砂防フロンティア整備推進機構	一般財団法人 水源地環境センター	石油連盟
一般社団法人 セメント協会	一般社団法人 全国建設業協会	公益社団法人 全国建築物飲料水管理協会
一般財団法人 ダム技術センター	一般社団法人 ダム・堰施設技術協会	電気事業連合会
一般社団法人 日本埋立浚渫協会	一般社団法人 日本ガス協会	一般社団法人 日本橋梁建設協会
一般社団法人 日本経済団体連合会	一般社団法人 日本建設機械施工協会	一般社団法人 日本建設業連合会
一般財団法人 日本建設情報総合センター	一般社団法人 日本水道工業団体連合会	日本製紙連合会
一般社団法人 日本鉄鋼連盟	一般社団法人 日本電機工業会	一般社団法人 日本ホテル協会
一般社団法人 日本林業土木連合協会	一般社団法人 日本レストラン工業会	ビール酒造組合
公益財団法人 リバーフロント研究所		

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット	公益社団法人 日本水道協会	公益財団法人 利根川・荒川水源地域対策基金
一般財団法人 造水促進センター	全国簡易水道協議会	一般社団法人 日本治山治水協会
公益社団法人 日本下水道協会	公益社団法人 土木学会	公益社団法人 日本河川協会
一般財団法人 日本ダム協会	公益社団法人 農業農村工学会	一般社団法人 日本工業用水協会
独立行政法人 水資源機構	特定非営利活動法人 日本水フォーラム	

(目 次)

第 44 回「水の週間」の開催にあたり	4
第 44 回「水の週間」行事の概要	6
水の週間中央行事「水を考えるつどい」	7
令和 2 年度水資源功績者表彰	11
第 42 回全日本中学生水の作文コンクール	13
第 35 回水とのふれあいフォトコンテスト	17
上下流交流活動	21
国・地方公共団体等における取り組みについて	24
第 44 回水の週間新聞等報道状況	33
「水の週間」実施経過	35
水の週間実行委員会について	38

※表紙の写真は、第 35 回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「水風船破裂」：白石信夫氏
※表紙のロゴマークは、平成 27 年に選定された「健全な水循環」に関するロゴマーク

「水の日」及び「水の週間」について

昭和 52 年 5 月 31 日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の上旬が適当であるので、その初日である 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

水循環基本法（平成 26 年法律第 16 号）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

平成 26 年 7 月 1 日に水循環基本法が施行され、8 月 1 日は、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として、法律で定められた「水の日」となりました。

第 44 回「水の週間」の開催にあたり



水の週間実行委員会 むしあけかつみ 会長

挨拶に先立ちまして、令和 2 年 7 月豪雨によってお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、各地で被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本日ここに、「水を考えるつどい」を開催するにあたり、主催者を代表し一言ご挨拶を申し上げます。

まず、本年度の「水を考えるつどい」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中央行事を Web 開催といたしました。開催に当たって、多くの皆様の格別のご理解とご協力を賜りましたことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

昭和 52 年に「水の日」「水の週間」の取り組みが始まって 40 年余が経過いたしました。その間、我が国ではソフト・ハードの両面からなる様々な対策を講じた結果、水問題について相当程度の改善を進めることができましたが、ここ数年を振り返りましても毎年のように水災害が生じている状況にあります。

今夏も長期にわたり本州付近に停滞した梅雨前線によって九州から東北地方にわたる広い範囲で記録的な大雨となりました。このように近年は毎年のように各地で洪水による激甚な災害が発生しており、引き続き被害を軽減する対策への努力が肝要です。

一方で、水不足、渇水について、本年は幸いにも大規模な渇水は発生していませんが、これまで毎年のように取水制限などの渇水による影響が発生しています。来年は、延期された東京オリンピック・パラリンピックが控えています。真夏の水需要が最も多い時期に、万が一にでも、水不足とならないよう備えを怠らず、この重要な国際イベントをやり遂げる必要があります。

水に関する問題は世界的にも顕在化しております。新型コロナウイルス感染拡大防止には、石けんを使った手洗いのために安全な水が不可欠ですが、水道や井戸など安全な水を利用できない人口は世界で約 22 億人いると言われており、安全な水へのアクセス改善は大きな課題です。また本年は、中国の長江をはじめ、諸外国で洪水被害が頻発したことは報道等で記憶に新しく、その一方で昨年 3 月にはフィリピンのマニラで深刻な水不足により 100 万を超える世帯の計画断水が実施されるなど、洪水・渇水による被害も後を絶ちません。このような状況の下、日本としても、常に世界の水問題に目を向け、改善への寄与が期待されていると考えます。

さらに本年 6 月には、「水循環基本法」に基づき、水循環に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められる「水循環基本計画」が初めて改定されました。このような状況を踏まえ、第 44 回「水の日」及び「水の週間」の諸々の行事を通じて、健全な水循環の重要性などについて、国民の皆様に広く理解と関心を深めていただき、今後水に関する防災や減災、持続可能な水利用の確保、さらには世界の水問題の改善などの取り組みにもつなげていけるよう、水循環政策本部、関係府省や都道府県等と連携して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

最後となりますが、水の週間行事に対する皆様の今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

第44回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
水の週間中央行事	1. 水を考えるつどい(Web配信) 配信日時: 令和2年11月7日(土) 10:00～ 配信方法: YouTube(MLITchannel) 内 容: ①主催者代表挨拶 ②沖先生の「水循環入門講座」(沖大幹、南利幸、中村真優) ③全日本中学生水の作文コンクールの内閣総理大臣賞受賞者による作文の朗読 ④パネルディスカッション(沖大幹、指出一正、武山絵美、立川康人)	主催: 水循環政策本部、国土交通省、東京都、実行委員会(注) 後援: 文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省、(独)水資源機構、(公財)日本科学技術振興財団、日本放送協会、(一社)日本新聞協会 推薦: 厚生労働省
令和2年度水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与。	主催: 国土交通省
第42回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生を対象に水の作文コンクールを実施。 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して最優秀賞(内閣総理大臣賞)等を授与。	主催: 水循環政策本部、国土交通省、都道府県 後援: 文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、全日本中学校長会、(独)水資源機構、実行委員会
一日事務所長体験	全日本中学生水の作文コンクール優秀賞以上の受賞者の内、希望する者について在住地近隣の関係機関の事務所において、一日事務所長体験を実施。 ※今年度は、新型コロナウイルスの影響により、令和2年12月以降に実施予定	
第35回水とのふれあいフォトコンテスト	健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する写真作品(例:「生命を支え、育む水」、「ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの」、「くらしの中の水」、「歴史とともにある水の風景」)を募集し、フォトコンテストを実施。優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与。 また、若年層も含めてより広く作品を募集するSNS部門コンテストを実施。優秀作品に対して、各賞を授与。	主催: 実行委員会 後援: 国土交通省、東京都、(独)水資源機構
上下流交流事業実施団体への助成	水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性についての啓発や、ダム水源地域の振興に資する上下流住民の連携に関する活動を行う団体等に対し、助成を実施。	主催: 実行委員会
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県等において実施。	主催: 都道府県ほか
その他	・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しの実施 ・ポスターの配布・掲示	

(注)「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

水の週間中央行事「水を考えるつどい」



例年、「水の週間」に開催している「水を考えるつどい」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、新たな取組として、Web 配信で開催することとしました。令和2年11月7日（土）午前10時より、国土交通省 You Tube（MLIT channel）で公開を開始し、公開後約1ヶ月で2,000回を超える再生回数となりました。

冒頭、主催者を代表し水の週間実行委員会の虫明功臣会長が挨拶を行いました。

第1部は、東京大学大学院工学系研究科の沖大幹教授より、水循環の基本について、気象キャスターの南利幸氏、2020ミス日本「水の天使」の中村真優氏とのやりとりを交え、わかりやすく解説を行っていただきました。

また、「第42回全日本中学生水の作文コンクール」の最優秀賞（内閣総理大臣賞）を受賞した京都府綾部市立上林中学校1年の柏原葵さんから、山水を水道水として使用するために必要な維持管理の大変さや湧き水程度の少量の水を使用していることなどを踏まえ、日常生活における水の貴重さや、美しく豊かな水を未来へ受け継いでいくために水を大切にしていこうという気持ちを綴った作文の朗読が披露されたほか、受賞の喜びの声を聞かせていただきました。

第2部は、第1部にもご出演いただいた沖大幹教授のほか、株式会社 sotokoto online の指出一正代表取締役、愛媛大学大学院農学研究科の武山絵美教授、京都大学大学院工学研究科の立川康人教授の4名により、「新たな水循環基本計画の始動～令和から始まる新・水戦略～」と題したパネルディスカッションが行われ、新たな水循環基本計画への期待と今後の水循環施策の展開についてお話を伺いました。

なお、本配信動画は、配信後も動画として以下URLよりご覧いただけます。

【配信URL】<https://youtu.be/k2jhekT180Q>

※今回のWeb配信は、すべて事前収録を行い編集したものをYouTubeによるプレミア公開^{*1}とした。

^{*1}プレミア公開とは、映画やテレビ番組のプレミア上映のような機能である。

【内容】

◆主催者代表挨拶：虫明 功臣 氏（水の週間実行委員会会長・東京大学名誉教授）

◆第1部

・沖先生の「水循環入門講座」

私たちが日々の暮らしの中で利用する水と水循環の関係、天気が水循環に与える影響など、専門家の方々の解説を交え、身近な存在である「水」について学ぶ「入門講座」。

沖 大幹 氏／東京大学大学院工学系研究科 教授

南 利幸 氏／気象キャスター

（NHK ニュースおはよう日本（土日祝キャスター）出演など）

中村 真優 氏／2020 ミス日本「水の天使」・NPO法人こどもの教育を支援する会代表

・第42回全日本中学生水の作文コンクールの内閣総理大臣賞受賞者による作文の朗読

柏原 葵 さん／京都府 綾部市立上林中学校 1年

◆第2部

・新たな水循環基本計画の始動～令和から始まる新・水戦略～

令和2年6月に改定された新たな「水循環基本計画」で重点的に取り組む「流域マネジメントの更なる展開と質の向上」、「安全・安心な社会の実現」、「次世代への豊かな社会の継承」を中心に、今後の水循環施策の方向性を展望。

【パネリスト】

沖 大幹 氏／東京大学大学院工学系研究科 教授

指出 一正 氏／株式会社 sotokoto online 代表取締役

武山 絵美 氏／愛媛大学大学院農学研究科 教授

立川 康人 氏／京都大学大学院工学研究科 教授

【司会進行】

若林 伸幸 氏／内閣官房水循環政策本部事務局長



「健全な水循環」
ロゴマーク

令和2年度
「水の日」記念行事
水を考えるつどい

配信日時：令和2年11月7日（土）10:00 公開予定（約1時間程度）
配信方法：You Tube（MLIT channel）でのプレミア公開
配信URL：<https://youtu.be/k2jhekT18OQ>

配信URLの
QRコード



ポケットモンスターのシャワーズも
8月1日「水の日」を応援しています。





虫明 功臣 氏



沖 大幹 氏



南 利幸 氏



中村 真優 氏



指出 一正 氏



武山 絵美 氏



立川 康人 氏

主催者代表挨拶：虫明 功臣氏／水の週間実行委員会会長・東京大学名誉教授

第1部：沖先生の「水循環入門講座」
沖 大幹氏／東京大学大学院工学系研究科 教授
南 利幸氏／気象キャスター（NHKおはよう日本（土日祝キャスター）出演など）
中村 真優氏／2020 ミス日本「水の天使」・NPO法人こどもの教育を支援する会代表
全日本中学生水の作文コンクールの内閣総理大臣賞受賞者による作文の朗読
柏原 葵さん／京都府 綾部市立上林中学校 1年

第2部：新たな水循環基本計画の始動～令和から始まる新・水戦略～
【パネリスト】
沖 大幹氏／東京大学大学院工学系研究科 教授
指出 一正氏／株式会社 sotokoto online 代表取締役
武山 絵美氏／愛媛大学大学院農学研究科 教授
立川 康人氏／京都大学大学院工学研究科 教授
【コーディネーター】
若林 伸幸／内閣官房水循環政策本部 事務局長

土木学会認定CPDプログラムの単位取得の申込方法は、国土交通省水資源部HP
(https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/tochimizushigen_mizsei_tk1_000024.html)に掲載します。
土木学会以外のCPDに単位を登録する際、受講したことがプログラムとして認められるかどうかは、各団体のルールに従ってください。
©2020 Pokémon. ©1995-2020 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc. ポケットモンスター・ポケモン・Pokémon は任天堂・クリーチャー・ゲームフリークの登録商標です。

「水を考えるつどい」開催周知チラシ

◆主催者代表挨拶



虫明功臣水の週間実行委員会会長

◆1部

・沖先生の「水循環入門講座」



1部出演者

(左から、司会者、沖大幹氏、南利幸氏、中村真優氏)

◆1部

・沖先生の「水循環入門講座」



沖大幹教授による水循環の説明の様子

・第42回全日本中学生水の作文コンクールの
内閣総理大臣賞受賞者による作文の朗読



最優秀賞 柏原 葵さん

(京都府綾部市立上林中学校 1年)

◆2部

・新たな水循環基本計画の始動
～令和から始まる新・水戦略～



2部出演者

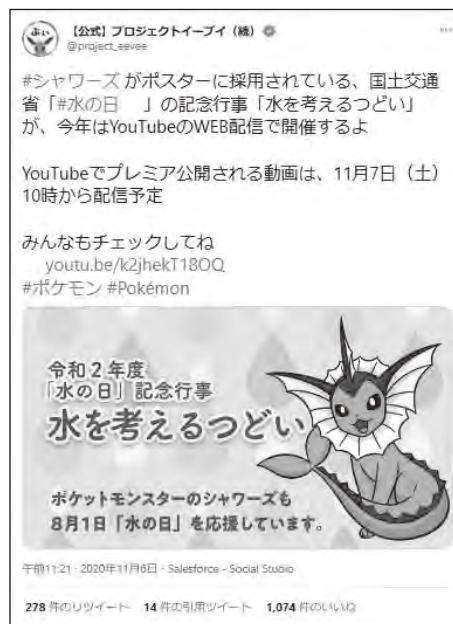
(左から、指出一正氏、沖大幹氏、武山絵美氏、立川康人氏、司会者)

○「水を考えるつどい」開催周知

- ・Twitterによる発信（国土交通省とポケモンの公式Twitter投稿）



国土交通省Twitter(11/6投稿)



ポケモンTwitter(11/6投稿)

- ・国土交通省プレスリリース

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

内閣官房同時発表

令和2年10月14日
水管理・国土保全局
水資源部水資源政策課

令和2年度「水の日」記念行事「水を考えるつどい」開催！（Web配信）

～全国の皆さんと一緒に、水の大切さを学びましょう！～

例年、「水の日」である8月1日頃に開催している「水を考えるつどい」は、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、秋以降に延期することとしていましたが、今般、新たな取組として、Web配信で開催することとしました。

全国の皆さんと一緒に、水循環を学ぶとともに、本年6月に閣議決定された新たな「水循環基本計画」に基づく水循環政策について、有識者の方々からご意見を伺います。

＜水を考えるつどい＞（※詳細は別添参照）
【配信日時】令和2年11月7日（土）10：00公開予定（約1時間程度）
【配信方法】YouTube（MLIT channel）
【配信URL】令和2年10月末頃、以下で発表予定です。
・国土交通省Twitter（@MLIT_JAPAN）
・国土交通省水資源部HP
（URL: https://www.mlit.go.jp/mizukakuhaku/mizukakuhaku/1304012024/mizukakuhaku_1304012024.html）

【配信内容】
●主催者代表挨拶
●第1部
・沖先生の「水循環入門講座」
・全日本中学生水の作文コンクールの内閣総理大臣賞受賞者による作文の朗読
●第2部
・新たな水循環基本計画の始動 ～令和から始まる新・水戦略～

※本配信動画は、土木学会認定CPDプログラムです。（JSCE20-0675 1.0単位）
単位の取得方法については、上記の国土交通省水資源部HPに掲載しています。

水循環基本法（平成26年7月施行）において、8月1日を「水の日」と定めています。「水の週間」（「水の日」を初日とする1週間）では、例年、地方公共団体やその他関係団体の協力を得ながら、水の大切さに関する普及啓発活動を全国的に実施しています。

【問い合わせ先】
水管理・国土保全局 水資源部 水資源政策課 富田、寺嶋、宿南
TEL：03-5253-8111（内線：31156、31143、31155）、03-5253-8386（夜間直通）
FAX：03-5253-1581

令和2年度
「水の日」記念行事
水を考えるつどい

配信日時：令和2年11月7日（土）10：00公開予定（約1時間程度）
配信方法：YouTube（MLIT channel）でのプレミア公開
※配信動画のURLについては、国土交通省Twitter（@MLIT_JAPAN）と
国土交通省水資源部HP（URL: https://www.mlit.go.jp/mizukakuhaku/mizukakuhaku/1304012024/mizukakuhaku_1304012024.html）で、10月末頃発表予定です。

主催者代表挨拶：虫明 功臣氏／水の週間実行委員会会長・東京大学名誉教授

第1部：沖先生の「水循環入門講座」
私たちが日々の暮らしの中で利用する水と水循環の関係、天気が水循環に与える影響など、専門家の方々の解説を交え、身近な存在である「水」について学ぶ「入門講座」です。
沖 大幹氏／東京大学大学院工学系研究科 教授
南 利幸氏／気象キャスター
（NHKニュースおはよう日本（土日祝キャスター）出演など）
中村 真優氏／2020ミス日本「水の天使」NPO法人こどもの教育を支援する会代表
全日本中学生水の作文コンクールの内閣総理大臣賞受賞者による作文の朗読
柏原 夢さん／京都府 綾部市立上林中学校 1年

第2部：新たな水循環基本計画の始動～令和から始まる新・水戦略～
我が国の水循環政策の進め方となる「水循環基本計画」が令和2年6月に改定されました。この新たな水循環基本計画で画期的に取り組む「流域マネジメント」の更なる展開と質の向上、「安全・安心な社会の実現」、「次世代への豊かな社会の継承」を中心に、今後の水循環政策の方向性を展望します。

【パネリスト】
沖 大幹氏／東京大学大学院工学系研究科 教授
指出 一正氏／株式会社 sotokoto online 代表取締役
武山 給美氏／愛媛大学大学院農学研究科 教授
立川 康人氏／京都大学大学院工学研究科 教授
【司会進行】
若林 伸幸氏／内閣官房水循環政策本部事務局長

※今年の「水を考えるつどい」は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、開催時期を延期し、Web配信とすることとしました。

水循環基本法で、8月1日を「水の日」と定めています。
8月1日から8月7日は「水の週間」です。

<http://mizunohi.jp> 水の日 検索

【主催】水資源政策本部、東京都、水の週間実行委員会
【後援】文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、国土交通省、学芸員
【協賛】日本水循環学会、日本水資源学会、日本水環境学会、日本水質学会、日本水質汚濁協会、日本水質汚濁協会、日本水質汚濁協会、日本水質汚濁協会

国土交通省プレスリリース（10/14）

令和２年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域の振興、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、水資源功績者として受賞されました。

〔個人〕 ２名

受賞者	功績概要
森下 裕 (福井県)	河内川ダム建設に計画当初から完成までの 26 年間関わり、ダム建設の促進を目的とした要望活動や、地元住民へダムの必要性や進捗状況などの説明会を行い、事業の推進と早期完成を実現し、水資源の開発に貢献された。
山本 文雄 (福井県)	農業用水を九頭竜川下流域へ安定供給するための国営土地改良事業で、多数の関係団体や受益者との調整において主導的役割を果たし、農業用水の安定供給を実現し、水資源の開発に貢献された。

〔団体〕 ４団体

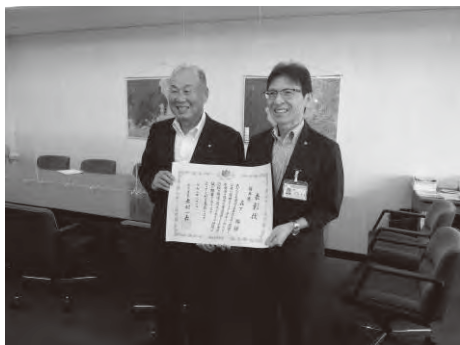
受賞者	功績概要
御所湖の清流を守る会 (岩手県)	流域住民や団体、事業者、行政機関など多様な主体と連携した御所湖及び御所湖流域の水源地域の清掃活動、水源地域と下流受益地域の小学生を対象としたダム見学等の交流会など、水源地域の活性化に係る活動を、長年にわたり実施している。
会津若松市立湊小学校 (福島県)	学校開校以来 21 年間、猪苗代湖の水質調査や崎川浜の清掃活動、隣市町と合同での猪苗代湖子ども交流会など、水資源に関するさまざまな教育活動や普及啓発に取り組んでいる。
さけの森林づくり推進協議会 (新潟県)	市や県、森林管理署、漁業協同組合などの地域内の多様な関係機関、関係団体との連携を図り、三面川源流部に原生しているブナ（約 282 ha）の森林整備活動、鮭の稚魚生育・放流など、水源林の整備・管理に尽力されている。
有田川町 (和歌山県)	県営多目的ダムの未利用だった維持放流水を活用した町営小水力発電所を完成させ、水力発電による売電収益を公共施設への再生可能エネルギー設備設置等の温暖化防止事業推進などに活用するなど、水資源の有効利用に取り組んでいる。

※表彰式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、開催を取りやめることとしました。

令和2年度水資源功績者表彰 受賞者写真

[個人]

森下 裕



左から、森下裕氏、福井県土木部長 小川俊昭氏

[団体]

御所湖の清流を守る会



前列左から、岩手県環境生活部長 藤澤敦子氏、
御所湖の清流を守る会 会長 高橋金兵衛氏

会津若松市立湊小学校



会津若松市立湊小学校 校長 樋口喜敬氏

さけの森林づくり推進協議会



左から、さけの森林づくり推進協議会副会長 佐藤克雄氏、
新潟県農林水産部長 山田治之氏

有田川町



左から、有田川町長 中山正隆氏、有田川町環境衛生課長 中岡浩氏

第 42 回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「第 42 回全日本中学生水の作文コンクール」を開催し、本年は 319 校より総数 9,444 編の応募がありました。各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞 1 編、優秀賞 8 編及び入選 33 編が選ばれました。

最優秀賞（内閣総理大臣賞）受賞者については、「水を考えるつどい」（Web 配信）の中で、朗読映像を配信しました。

(1) 主催等

主 催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県

後 援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、
水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構、全日本中学校長会

(2) 募集要領

①テ ー マ：「水について考える」（題名は自由）

②原 稿：400 字詰原稿用紙 4 枚以内

(3) 中央審査会審査委員 ※敬称略 審査当時

熊谷 和哉 （厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長

：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

豊 輝久 （農林水産省農村振興局整備部水資源課長

：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

塩手 能景 （経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ地域産業基盤整備課長

：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

森田 健児 （国土交通省大臣官房審議官（水管理・国土保全局水資源部担当）

：内閣官房水循環政策本部事務局審議官）

筒井 誠二 （環境省水・大気環境局水環境課長

：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

宮田 正博 （全日本中学校長会編修部長）

須磨 佳津江（キャスター）

長崎 宏子 （スポーツコンサルタント）

玉野井 晃 （公益社団法人 日本水道協会調査部長）

三輪 準二 （独立行政法人水資源機構理事）

※今年の表彰式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、例年行っている「水を考えるつどい」においての開催を取りやめ、各中学校主催で行っていただくことにしました。

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

私が使っている水

京都府 綾部市立上林中学校 一年 柏原 葵

私は六年前、大都会の大阪から、上林というとても自然豊かな場所に引っこしてきました。上林に引っこして来るまでは、何もしなくても、じゃ口をひねれば水がでてきました。お風呂も、ボタン一つおせば、きれいな温かいお湯がたまっていました。

しかし、上林のくらしは全然ちがいました。特に私が住んでいる集落は、水道がきていませんでした。三年前まで山水をろ過して使用していました。

山水を使っていたころは、水量も少なく、お風呂に水をためるのも、すごく時間がかかりました。私の母に聞いてみると、山水で大変だったことは、「水圧が弱いこと」そして、雨がたくさん降ったときに「水がにごること」もう一つは、雨の後、パイプがつまって、「水が出なくなること」です。

私たちが使用している山水は、山奥の方から、長い長いパイプを下って、家の近くの貯水タンクでろ過されて、私たちの家に来ていました。そのため、水量も少なく、水圧も弱くなります。

それに、台風のように、たくさん雨が降ると、いろいろな葉っぱやどろなども混ざって、勢いよく流れてくるので、ろ過しきれず、少しにごった水が、家に届くときもあります。でも、母がいちばん大変だと言っていたのは、台風で、水が出なくなったりするときです。時々、台風るとき、水が流れるパイプが葉やどろでつまってしまったり、はずれてしまったりする場合があります。その時は、雨の中、地域の人と水源まで見に行つて、パイプをそうじしたり、はずれたパイプを直したりしています。しかし、水源に行くのは、その時だけではありません。一年に数回、交代で、見に行かないといけません。もし、パイプがはずれかけていたり、まわりがどろでいっぱいだったら、再度つまり、水が出なくなってしまうからです。私は一度、母といっしょに水源に行つたことがあ

ります。私はついに行つて、おどろきました。水源のある場所がすごく山奥で、うす暗い場所だったからです。水の量は、川のようにたくさん水が流れているというわけがなく、ちよろちよるとわき水程度でした。パイプも、とても細いのが通っているだけだったので、自分達が使っている水の大切さ、ありがたみを感じることができました。

しかし、私は一つ、疑問に思いました。なぜなら、私の家は、現在、井戸水を使うようになり、山水は使わなくなっていたにも関わらず、母や父は山水の貯水タンクのそうじに参加しているからです。不思議に思つたので、母に尋ねると、「もし、井戸が枯れたり、電気がなくなると、井戸水を上げるポンプが使えなくなり、また、山水を使うことになるから。」と答えてくれました。母が水のことを大切にしている思いが伝わり、私も、これから、もっとそうじに参加していきたいと思いました。

今は、井戸水になり、水がにごったり、水圧が弱くなったりして、困ることも無くなりました。ですが、井戸水も、いずれ枯れてしまいます。私は、これからも毎日のように使つていく自然の水を、大切に使うつもりです。

水は、私たちのことを苦しめることもたくさんあります。でも水は、私たちには、無くてはならない存在です。その水を守っていくのは、私たち、人間だと思えます。自分たちにできることは、ポイ捨てをしないことや、ゴミ拾いをするなど、本当に小さなことかもしれませんが。でも、今、一人でも何かしないと、いつか私たちに必ずかえってきます。そうならないためにも、私たちにできることは何なのかを考えることが大切だと私は思います。

最優秀賞受賞者の表彰式や受賞作文の朗読写真等



最優秀賞受賞者の所属する中学校主催で行われた表彰式の写真
(左から、柏原 葵さん、綾部市立上林中学校 塩尻校長)



受賞作文の朗読状況の写真
柏原 葵さん



受賞者の住む京都府綾部市上林付近の風景



受賞者の住む京都府綾部市上林付近の風景



令和2年度 第42回全日本中学生水の作文コンクール
募集ポスター

第42回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	ふりがな 学校名	学年	ふりがな 氏名
最優秀賞 内閣総理大臣賞	京都府	私が使っている水	あやべしりつかんばやしちゅうがっこう 綾部市立上林中学校	1	かいわばら 葵
優秀賞 厚生労働大臣賞	栃木県	水と共に生きる	きののほんだいがくちゅうとうきょういっくがっこう 佐野日本大学中等教育学校	2	はやし 咲結理
優秀賞 農林水産大臣賞	愛知県	大地と街を潤す豊川用水	あよかわしりつなんふちゅうがっこう 豊川市立南部中学校	3	こうべ ここな
優秀賞 経済産業大臣賞	熊本県	水の旅	くまもとしりついでちゅうがっこう 熊本市立出水中学校	1	しみず はるか
優秀賞 国土交通大臣賞	群馬県	水と関わり合う日々	ふかわしりつしんかわちゅうがっこう 渋川市立渋川中学校	2	おおたに ゆう斗
優秀賞 環境大臣賞	宮崎県	未来に繋ぐ優しい水音	みやざけんりつみやぎまにしこういっくがっこう 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	3	おおしろ きわ
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	愛媛県	水の向こうにあるもの	あいこうちゅうがっこう 愛光中学校	1	いのうえ 愛理
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	栃木県	水のありがたさを知って	きののほんだいがくちゅうとうきょういっくがっこう 佐野日本大学中等教育学校	2	ひろせ ののか
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	福岡県	つなぐ…水	ふくおかきょういっくがくふ ぞくふくおかちゅうがっこう 福岡教育大学附属福岡中学校	2	うの 誠洋
入選（33編）	岩手県	人々の健康と水への思いやり	いちのへちゅうりつおくなきやまちゅうがっこう 一戸町立奥中山中学校	3	なかしま 歩
	岩手県	水資源を守っていく	もりおかちゅうおうこうとうがっこうふぞくちゅうがっこう 盛岡中央高等学校附属中学校	3	ほそだ 萌々菜
	岩手県	かけがえのない水と共に	もりおかちゅうおうこうとうがっこうふぞくちゅうがっこう 盛岡中央高等学校附属中学校	3	むらまつ いちろう
	宮城県	水を守る～野蒜の地から学んだこと～	だんだい しりつ こおりやぶちゅうがっこう 仙台市立郡山中学校	3	おおき ちから
	宮城県	水と共に生きる	みやぎけん せんだい にか ちゅうがっこう 宮城県仙台二華中学校	3	にしはら 結花
	秋田県	真夏の水とつなぐ命	あおだてしりつひがしちゅうがっこう 大館市立東中学校	3	やまだ ななみ
	福島県	見えてくるもの	あいづ わかまつ しりつ いっせ ちゅうがっこう 会津若松市立一箕中学校	2	いのうえ りわ
	群馬県	命を守る水	ぐんまだいがくきょうどうきょういっくがくふぞくちゅうがっこう 群馬大学共同教育学部附属中学校	3	たぐち 郁子
	埼玉県	水を飲む、命をつなぐ	うらわ あけ ほしじょしちゅうがっこう 浦和明の星女子中学校	2	きたがみ きき
	千葉県	「未来へつなぐ水」	ち ほだいがくきょういっくがくふ ぞくちゅうがっこう 千葉大学教育学部附属中学校	1	くさば 美海
	東京都	水から自然を考える	とうきょう たいがく せいぶく びんご ちゅうがっこう 東京大学教育学部附属中等教育学校	3	ななべ さわ
	東京都	水の国に生きる身としての「義務」	とうきょう たいがく せいぶく びんご ちゅうがっこう 東京大学教育学部附属中等教育学校	3	増尾 諒一
	神奈川県	水と密接な関係を持つ森林	けいおうまじゅくふつうぶ 慶應義塾普通部	2	丸岡 龍生
	新潟県	水とは何か	にいがたしりつ なかのや ちゅうがっこう 新潟市立中野小屋中学校	2	たかはし ほのか
	富山県	水がある幸せ	たかおか しりつあいでちゅうがっこう 高岡市立戸出中学校	2	いぬば 結奈
	岐阜県	後世につなごたい宝物	たかやましりつしやうあわちゅうがっこう 高山市立荏荏中学校	1	たぐち 亜美
	静岡県	亀から学んだ地下水の恵み	しずおかしりつおまがみみなちゅうがっこう 静岡市立長田南中学校	1	こんどう 沙彩
	愛知県	諸刃の剣「水」	あいちこうりつふそうちゅうがっこう 扶桑町立扶桑中学校	3	まの そうま
	三重県	水道水がとどくまで	たかだ ちゅうがっこう 高田中学校	2	さくた しずく
	滋賀県	まずはあなたの意識から	お みの しりつ からさきちゅうがっこう 大津市立唐崎中学校	3	のひら ゆり
	大阪府	当たり前の中には	おおさかきょういっくがくふ ぞく ひら のちゅうがっこう 大阪教育大学附属平野中学校	1	ひさ 引地 奏葉
	兵庫県	共存する地球	ひょうごきょういっくがくふ ぞくちゅうがっこう 兵庫教育大学附属中学校	3	ながた きつな
	奈良県	「生きている水」	やまとこおりやましりつこおりやまにしちゅうがっこう 大和郡山市立郡山西中学校	3	ふじもり 美花
	奈良県	祖父の野菜の秘密	ごじょうしりつごじょうひがめちゅうがっこう 五條市立五條東中学校	2	もりた まい
	和歌山県	水への感謝	わかやましりつたなべちゅうがっこう 和歌山県立田辺中学校	2	わかやま 昌聖
	徳島県	水への感謝を忘れずに	とくしまきょういっくがくふ ぞくちゅうがっこう 鳴門教育大学附属中学校	3	まつゆが 理沙
	香川県	水の大切さを知った出来事	たかまつ しりつ むら ちゅうがっこう 高松市立牟礼中学校	2	な 菜切 麻央
	愛媛県	水と共に生きる道	まつやましりつかもがわちゅうがっこう 松山市立鴨川中学校	1	きのした 大悟
	佐賀県	ふるさとの海	からつ しりつ かいせいちゅうがっこう 唐津市立海青中学校	3	まつなが りな
	長崎県	生命を守る水	ながさきしりつふらちゅうがっこう 長崎市立淵中学校	2	しまだ 美花
	長崎県	水と環境	ながさきしりつふらちゅうがっこう 長崎市立淵中学校	2	すずき 涼子
	熊本県	あのサウンドをいつまでも	くまもとしりついでちゅうがっこう 熊本市立出水中学校	2	もり の
	大分県	みんなが笑顔で水を飲むために	おおいただいがくきょういっくがくふ ぞくちゅうがっこう 大分大学教育学部附属中学校	3	やまがた 希来

第35回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会
 後援 国土交通省、東京都、独立行政法人水資源機構
 協賛 富士フイルムイメージングシステムズ（株）

募集作品 健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する作品

例) ・生命を支え、育む水 ・暮らしの中の水
 ・ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの
 ・歴史とともにある水の風景 など

○カラープリント部門

募集期間 令和2年4月27日（月）～ 令和2年6月26日（金）

応募状況 総計 2,497 点

審査員（敬称略 審査当時）

中谷 吉 隆（写真家）	森 田 健 児（国土交通省大臣官房審議官）
内 田 勲（写真家）	佐 藤 伸 朗（東京都都市整備局長）
筑紫 ゆうな（切り絵作家）	赤 崎 暢 彦（水の週間実行委員会運営委員長）

○SNS部門

募集期間 令和2年4月27日（月）～ 令和2年6月26日（金）

応募状況 総計 1,799 点

審査員（敬称略 審査当時）

詩 歩（Shiho）（「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサー）
ひきたよしあき（株式会社博報堂クリエイティブプロデューサー）



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

【カラープリント部門受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

○ 国土交通大臣賞

「水風船破裂」

しらいし のぶお
白石 信夫（愛媛県）



〔優秀賞〕 2名

○ 東京都知事賞

「歴史を覗くと…」

なかむら かずと
中村 一翔（東京都）



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

「もうひとつの宮ヶ瀬ブルー」

たかつ ひろと
高津 弘人（神奈川県）



〔特別賞〕 1 名

○ 審査員特別賞

「気分はカウボーイ」

むらまつ まほ
村松 真帆 (愛知県)



〔特 選〕 5 名

「水が命」	さとう かつみ 佐藤 克實	(東京都)
「藤、色めく春の宵」	こじま ちひろ 小島 千尋	(神奈川県)
「ダム湖の春」	ふじわら せいや 藤原 靖也	(宮城県)
「お手伝い」	ふるかわ きよみ 古川 佐代美	(福岡県)
「打ち水」	み と 律子 三戸 律子	(山口県)

〔入 選〕 10 名

「激流に挑む」	おおたか ひさよし 大高 久昌	(愛媛県)
「トンネルの中」	たご やすひろ 田子 保浩	(福島県)
「雨を待ち侘びて」	あいさわ ゆういちろう 合澤 優一郎	(東京都)
「ウォーター・ベッド」	こんどう ひろし 近藤 洋	(兵庫県)
「誕生」	いしがき きよとし 石垣 清俊	(静岡県)
「思いを乗せて」	あさの てるこ 浅野 照子	(神奈川県)
「水滴の蝶」	さき き こうき 佐々木 弘紀	(佐賀県)
「私の体になる水」	さく ま みほ 佐久間 弥穂	(東京都)
「SUP で乾杯」	うえすぎ こうてつ 上杉 孝徹	(香川県)
「ひな流し」	せきや としお 関矢 俊夫	(群馬県)

【SNS 部門受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

あーやん★

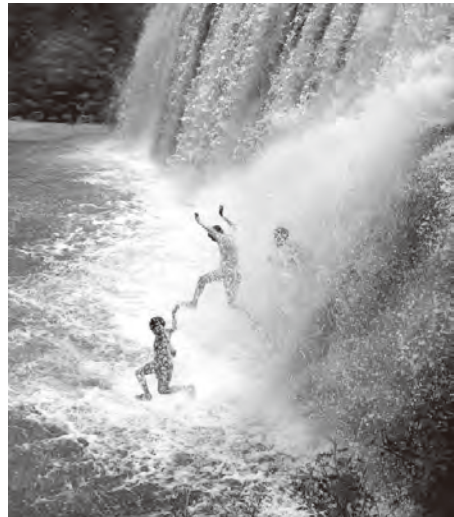
(on twitter)



〔特別賞〕 2名

3flower

(on twitter)



gogen4115

(on instagram)



上下流交流活動

水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発、健全な水循環の重要性について、国民の間に広く理解と関心を深めるため、ダム水源地域等の振興等に資する活動を行う団体に対し、助成に関する公募を行い、選考の上、以下に掲げる11団体に助成を実施しました。

No.	実施団体	名称・内容	実施日・実施場所
1	石巻市立湊小学校	北上川の魅力紹介～湊小学校からのメッセージ～ 北上川に関する施設見学学習、鮭の捕獲見学と採卵体験、発表会を通じて、川の役割を理解し、北上川の魅力を呼びかけた。	R2. 10. 2(金)ほか 宮城県石巻市 (石巻市立湊小学校ほか)
2	NPO 法人 足尾に緑を育てる会	第21回足尾グリーンフォーラムフィールドワーク 参加者は、足尾の歴史と活動について事前学習し、栃木県ロータリークラブの高校生によるドングリプロジェクトの環境学習と銅山の操業で荒廃した山地への体験植樹を行った。	R2. 10. 17 (土) 栃木県日光市足尾町
3	NPO 法人 水のフォルム	第8回上下流交流-神流川・下久保ダム・八斗島見学会 水のフォルム機関誌で紹介したことを契機に人々の関心が高まった、神流川、下久保ダム、八斗島（利根川河川基準地点）の見学会を実施した。	R2. 8. 26(水) 埼玉県児玉郡神川町ほか (下久保ダムほか)
4	千葉県上下流交流事業実行委員会	ハッ場ダム上下流交流事業「水の大使 2020 思い出のアルバム」 「水の貴重さ、大切さの発見」をテーマに、千葉県内の小学生・保護者が、ハッ場ダムの水没関係地区である長野原町立第一小学校を訪れ、交流会を実施してきたが、同校が廃校となることが決定していることから、過去の「水の大使」参加者からのメッセージと、当時の交流会の写真等を綴った、「水の大使 思い出のアルバム」を作成し、同校へ寄贈した。	R2. 8 月～ 群馬県吾妻郡長野原町
5	ブナ林探訪会	生命の水と森の活動センター協議会 揖斐川源流域の珍しい昆虫についての研修を実施し、生きた昆虫を見ながら、その美しさや面白い動きをルーペで観察したり、実際に手で触れたりした。 また、参加者は、木の実ストラップづくりを体験した。	R2. 7. 19(日) 岐阜県揖斐郡揖斐川町 (生命の水と森の活動センター)
6	豊川総合用水 土地改良区	令和2年度豊川用水上下流交流事業 豊川用水の水源地である愛知県新城市在住の小学生に、上流で貯められた水が、下流でどのように有効利用されているかを知ってもらうことを目的に、豊川用水についての概要説明や施設の現地見学等を実施した。	R2. 7. 1(水) 愛知県新城市 (新城市立東陽小学校ほか)
7	NPO 法人 やなむねがわ 家棟川流域観光船	家棟川ビオトープ 魚の観察会 琵琶湖の自然環境及び水資源の大切さを学ぶ事業として、大阪府豊中市の子供達と地元滋賀県野洲市等の子供達で、家棟川で船上より琵琶湖の自然やとれた魚の観察とビオトープにて生息する様々な生物とのふれあいを体験した。	R2. 8. 29(土) 滋賀県野洲市 (家棟川下流)

No.	実施団体	名称・内容	実施日・実施場所
8	あまわかし 天若湖アートプロジェクト実行委員会	天若湖アートプロジェクト 2020 オンラインでの開催。過去15年間の記録を集めた特設サイトを新設し、10月24日にはYouTubeでのリアルタイムトークイベント（アート部門と川・環境部門の2部構成）を開催した。	R2. 10. 24(土) YouTube ほか
9	子供のもり公園 活性化協会	平森ウォーター・イベント～水に親しむ～ 「水に親しむ」をテーマとし、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性についての関心を高めることを目的に、家族で楽しめるイベント（カヌー体験教室）を実施した。	R2. 7. 12(日)ほか 奈良県宇陀市 （平成榛原子供のもり公園）
10	伊万里フットパス協会	1級河川松浦川中流域フットパス体験会 地域の活性化を促進するとともに健全な水循環の重要性などを認識することを目的に、主に河川堤防や国の河川環境整備事業で整備された1級河川松浦川中流域の水辺施設「ウォーターフロントこまなき」などを地元の人々との交流を楽しみながらランブリング（ぶらぶら道草しながら歩行）した。	R2. 9. 27(日)ほか 1級河川松浦川中流域 伊万里フットパス大川野コース及び駒鳴コース
11	IWP(池田湖ウォータープロジェクト)	池田湖水フェス 指宿市及び近隣地区の上水及び畑かん用水の資源として利用されている池田湖において、周辺住民の方に水に親しむ機会を設けるべく、水の日に関水イベント（子供向けのバナナボート等）を実施した。 また、県の防災航空隊の協力の下、湖上における防災ヘリのレスキュー訓練の実演も実施した。	R2. 8. 2(日) 鹿児島県指宿市 （池田湖）

【実施状況（抜粋）】



ブナ林探訪会
(生命の水と森の活動センター協議会)



令和2年度豊川用水上下流交流事業
(豊川総合用水土地改良区)



家棟川ビオトープ 魚の観察会
(NPO 法人家棟川流域観光船)



1級河川松浦川中流域フットパス体験会
(伊万里フットパス協会)

国・地方公共団体等における取組について

内閣官房をはじめとする国の機関や地方公共団体等においても、水に関する理解を深めるための取組が実施されました。また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、集客型のイベントが多数中止される中、Webサイトでのオンラインイベントなど、新たな形で実施された取組もありました。

国土交通省内でのパネル展示

期間 令和2年8月17日（月）～令和2年9月6日（日）※1

令和2年10月15日（木）～令和2年10月27日（火）※2

場所 合同庁舎3号館1階正面玄関展示スペース（東京都千代田区霞が関2-1-3）

内容 第35回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品※1、令和2年度水資源功績者表彰受賞者功績概要※1、第42回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品※2を展示し、国土交通省職員及び来庁者に水の大切さをPRしました。



パネル展示状況
（水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品）



パネル展示状況
（水資源功績者表彰受賞者功績概要）



パネル展示状況
（全日本中学生水の作文コンクール優秀作品）

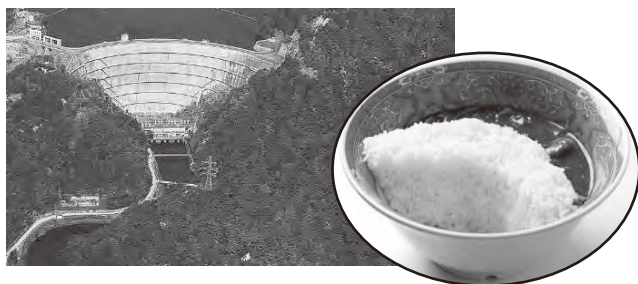
国土交通省ダムカレーの販売

期間 令和2年7月27日（月）～令和2年7月31日（金）

場所 合同庁舎3号館地下1階職員食堂（東京都千代田区霞が関2-1-3）

内容 「森と湖に親しむ旬間（7/21～7/31）」と「水の週間（8/1～8/7）」のコラボ企画として、国土交通省ダムカレーを販売し、水の日（8/3）のPRをしました。およそ1日60食が販売され、連日売り切れの盛況でした。（合計310食）

また、7月28日には、佐々木 元国土交通大臣政務官と2020ミス日本「水の天使」中村真優さんによる会食が行われました。



ダムカレーのモデルとなった矢木沢ダム



佐々木 元国土交通大臣政務官と
2020ミス日本「水の天使」による会食

【福井県】イトヨの里企画展 2020「のぞいてみよう越前おおのの水の中」

期間 令和2年8月1日（土）～令和2年9月30日（水）

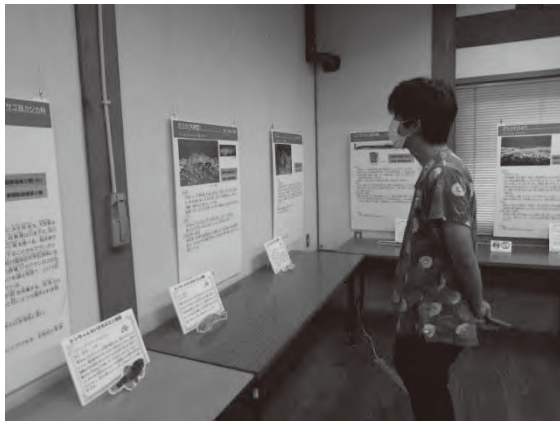
場所 本願清水イトヨの里（福井県大野市糸魚町8-44）

主催 本願清水イトヨの里

人数 約2,028人（上記期間の合計）

内容 大野市に生息している水中の貴重ないきもの12種、越前おおののいきものを脅かすいきもの7種を紹介するパネル展やニホンイシガメなどの身近な水生生物約25種の生体展示を開催しました。

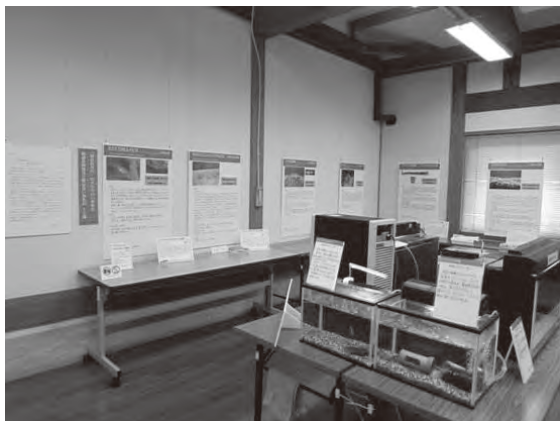
来場者に水中に住む身近な生き物を知り、越前おおのの自然環境の豊かさに触れていただきました。



パネル展示



環境省絶滅危惧Ⅱ類 アカザ



展示の様子（全体）

※1 巧水スタイルとは、「水を賢く使う社会」の実現のために、日本が世界に冠たる水の国、巧水（たくみ）の国となっていけるよう、産学官の連携によって「節水意識」の向上と「節水化技術」、「節水化システム」の普及・啓発を図る活動によって目指す社会のキーワードです。

[illegible]

全てが便利になったいま、取って「雨水生活」の体験をとおして、水の尊さ、有難さを知る。雨の恵みや海水を生かす知恵など、子供たちにとっても思い出に残る体験になったことでしょう。水の大切さを表現しているとともに、体験している子供たちの生き生きとした表情が印象的です。

【東京都】水のふしぎサイエンスラボ～自由研究のヒントがいっぱい～

実施 令和2年8月19日（水）

場所 東京都港区立エコプラザ

主催 東京都港区

講師 アクアスフィア・水教育研究所 代表 橋本淳司氏

人数 24名（港区在住・在学の小学生とその保護者）

内容 小学校低学年向けの講座では、自分が水になって、水の循環を体験するすごろく（プロジェクトWET「驚異の旅」）や、水をいっぱいに入れたコップのなかにビー玉を入れた「表面張力」の実体験、水質を調べるキット（パックテスト）を使った水質検査を行いました。

小学校高学年向けの講座では、地下水の汚染について学びました。地下水によって汚染物質が移動していくことを、pHの変化をたよりに探索し、最終的に汚染源をつきとめました。

本講座を通して、水資源の大切さや、水を使い続けるために、私たちが日頃生活の中で気をつけるべきことを考える機会になりました。



講座の様子



ビー玉を使った表面張力の実験



汚染源の調査



水質調査

「水の日」ブルーライトアップ

実施日 令和2年8月1日（土）

- 場 所
- ・ さっぽろテレビ塔（北海道札幌市）
 - ・ マイクロ無線鉄塔（岩手県盛岡市）
 - ・ 東京ビッグサイト（東京都江東区）
 - ・ アサヒグループ本社ビル（東京都墨田区）
 - ・ ゆりかもめ新橋駅（東京都港区）
 - ・ フジテレビジョン（東京都港区）
 - ・ レインボーブリッジ（東京都港区）
 - ・ 株式会社乃村工藝社（東京都港区）
 - ・ モザイク大観覧車（兵庫県神戸市）
 - ・ 別府タワー（大分県別府市）

内 容 国土交通省では、今年度の新たな取組として、8月1日「水の日」に、「水の日」の認知度向上や普及啓発を図るため、「水」を連想させるブルーでのライトアップを事業者に呼びかけ、全国各地の施設（10箇所）で実施されました。

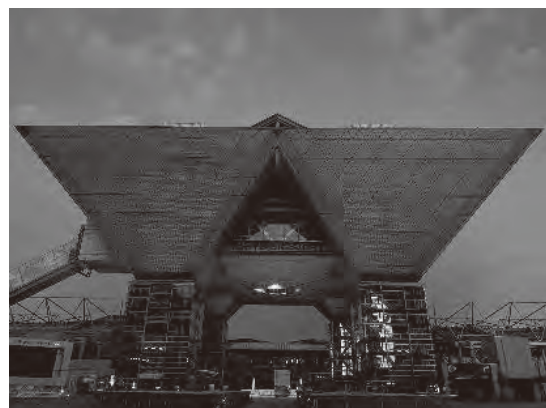
ブルーに染まった各地の施設



さっぽろテレビ塔



レインボーブリッジ



東京ビッグサイト

広報の取り組み

水資源の有限性や水の貴重さについての理解と関心を深めるために積極的な広報を行いました。

○「水の日」ポスターによるPR

期間 令和2年7月1日（水）～令和2年8月7日（金）

場所 関係府省庁、都道府県、市町村、中学校、鉄道会社（36 駅）等で掲出
（ポスター配布枚数2万枚）

内容 今年度のポスターには、より多くの人に「水の大切さ」についての理解と関心を深めていただくため、国内外の幅広い世代から人気のあるポケットモンスターのキャラクター「シャワーズ」と2020ミス日本「水の天使」の中村真優さんを採用し、積極的な情報発信を行いました。



令和2年度「水の日」ポスター



ポスター掲出状況
東京メトロ（霞ヶ関駅）



ポスター掲出状況
港区商店街

○「水の日」動画によるPR

投稿日 令和2年7月17日（金）

媒体 YouTube (MLIT channel)

URL <https://youtu.be/pbkqd72DfJU>

今年度の新たな取組として、より多くの人に8月1日「水の日」を知っていただくため、水について考えるきっかけとなる内容をまとめた動画（約40秒程度）を作成し、YouTubeで公開しました。



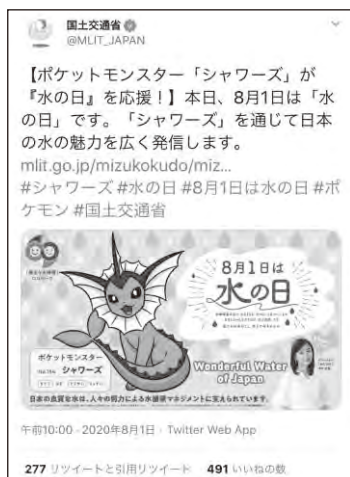
動画タイトル：ポケットモンスター「シャワーズ」も「水の日」を応援！（再生回数：5,000回以上）

○SNSによる発信（国土交通省と㈱ポケモンの公式Twitterでの「水の日」PR）

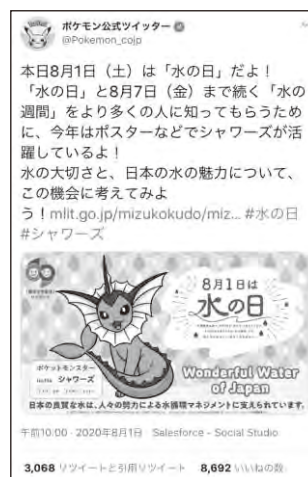
サイト名 Twitter

投稿日 令和2年8月1日（土）

「水の日」の認知度向上や、「水の大切さ」や「健全な水循環」について考えていただくため、国土交通省及び㈱ポケモンの公式Twitterで、「水の日」である8月1日に投稿し、大きな反響がありました。（国土交通省と㈱ポケモンで合計した「いいね」の数は、9,000以上。）



国土交通省 Twitter (8/1 投稿)



㈱ポケモン Twitter (8/1 投稿)

○SNSによるバナー広告の掲載

サイト名 Yahoo!、Twitter、Facebook、Instagram

期間 令和2年7月23日（木）～令和2年8月9日（日）

広告内容 ～ポケットモンスター「シャワーズ」が『水の日』を応援！～みなさん、8月1日が「水の日」って知っていましたか？みなさんも、「水の日」をきっかけに、水の大切さや健全な水循環の重要性について、家族やお友達と一緒に考えてみませんか。#水の日で投稿して、「水の日」を盛り上げましょう。



Twitter バナー広告

○2020ミス日本「水の天使」による「水の日」PR

・赤羽国土交通大臣への表敬訪問

7月28日(火)に、赤羽国土交通大臣は、2020 ミス日本「水の天使」の中村真優さんの表敬訪問を受けました。

中村さんは、「水の天使」として子どもたちに水の大切さを伝えていきたい、衛生管理上重要な役割を担う上下水道事業者の方々の応援団長になりたい等の思いを語りました。

赤羽国土交通大臣からは、8月1日「水の日」や水の大切さについて、今後も積極的なPRをお願いします、との発言がありました。

なお、この様子はTBSテレビ「Nスタ」や日本下水道新聞等で取り上げられました。



TBS テレビ「Nスタ」

・メディアキャラバンの実施

7月16日(木)に、2020ミス日本「水の天使」の中村 真優さんと「水の日（8月1日）」の認知度向上を図るためメディアキャラバンを行い、新聞やウェブサイト（ニュースサイト）等で取り上げられました。

掲載媒体一覧

- 【新 聞】 7月22日 日本水道新聞（水の日・ポケモン）
7月27日 日本水道新聞（ライトアップ）
7月29日 日本下水道新聞
7月29日 スポーツニッポン
7月31日 夕刊フジ

- 【We b】 7月31日 zakzak夕刊フジ



取材風景

第44回「水の週間」（令和2年度）都道府県行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭キャンペーン	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕 電光掲示板・立看板
全国	47	6	5	8	3	15	47	3	9	12	14	41	11
北海道	○	☆				○	◎					○	
青森県	○		☆			☆	◎					○	
岩手県	○						◎					○	
宮城県	○						◎					○	
秋田県	○						○						
山形県	○						○				☆	○	
福島県	○					☆	◎		☆		☆	◎	☆
茨城県	○					○	○					○	
栃木県	○	◎					◎		○			○	○
群馬県	○					○	◎					○	
埼玉県	○						◎				◎	◎	◎
千葉県	○					○	◎				◎	○	
東京都	○						◎					○	
神奈川県	○			☆		☆	◎		◎	☆	◎	◎	☆
新潟県	○						◎			○		○	
富山県	○						◎			○		☆	
石川県	○						◎						
福井県	○		☆	☆		○	○				☆	☆	
山梨県	○	◎					○				☆	☆	
長野県	○	◎					○						○
岐阜県	○					◎	◎					○	
静岡県	◎		○			☆	◎	○	○	◎	○	◎	
愛知県	○					○	◎					○	
三重県	○						◎					○	
滋賀県	○						◎			○		○	
京都府	○			☆			◎		☆			◎	
大阪府	○		☆	☆	☆		◎	☆		☆	☆	☆	
兵庫県	○					○	◎			◎		◎	
奈良県	○					◎	◎					○	
和歌山県	○						◎					○	
鳥取県	○						○						
島根県	○						◎			○	○		
岡山県	○			☆			○						☆
広島県	○						◎					◎	
山口県	○						◎					○	
徳島県	○			○	○		◎					○	○
香川県	○	◎		◎			◎		○		○	○	
愛媛県	○			☆		◎	◎					◎	○
高知県	○						○					○	
福岡県	○						◎		○		○	○	○
佐賀県	○					○	◎	○		○		○	
長崎県	○						◎				☆	◎	
熊本県	○				☆		◎			○		◎	
大分県	○						◎		○			○	○
宮崎県	○						◎		○	○		○	○
鹿児島県	○		☆				◎			☆	☆	☆	
沖縄県	○	◎					◎					○	

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。

「パンフレット」欄の◎は、都道府県等で独自に作成したものを配布したことを示す。

「水の作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示し、☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第44回水の週間 新聞等報道状況

月 日	都道府県	新聞名等	地域	見 出 し
12月29日	沖縄県	宮古毎日新聞	地方	新城さん(下地中一年)が優秀賞 「水の大切さ」訴える
12月30日	沖縄県	沖縄タイムス	地方	「水の作文」コン中学生10人表彰
6月12日	福島県	福島民報	地方	優秀賞に5作品 中学生水の作文県コンクール
6月12日	福島県	福島民友	地方	優秀賞5点決まる 中学生水の作文
6月12日	静岡県	富士ニュース	地方	水資源の大切さ伝える 県が小学校で出前教室
6月22日	静岡県	伊豆新聞	地方	とぎ汁汚れ、試薬で確認 出前教室 節水の大切さなど学ぶ
7月9日	静岡県	伊豆日日新聞	地方	水、無駄にしない汚さない守ろう 三島・山田小で県出前教室
7月11日	北海道	日刊留萌新聞	地方	水の作文コンクール 港南中渡邊さんが入選
7月14日	北海道	北海道新聞	地方	地震で痛感 水の大切さ※水の作文コンクール関係記事
7月14日	岩手県	盛岡タイムス	地方	水の大切さを表現 中学生水の作文県コンクール 盛岡中央高附属中生5人が入賞
7月14日	香川県	FM SUN(ラジオ)	地方	節水チャレンジについて
7月15日	北海道	北海道新聞	地方	大麻さんに水の作文最高賞
7月15日	岩手県	胆江日日	地方	身近な水不足考える 前沢中3年の千田杏南さん 水の作文県コンクールで優秀賞
7月15日	静岡県	静岡新聞	地方	水の大切さ 児童に紹介 県職員が出前教室
7月16日	香川県	FM香川(ラジオ)	地方	節水チャレンジについて
7月19日	岩手県	岩手日日	地方	資源の無駄遣い減らそう 水の作文県コン 千田さん(前沢中3年)優秀賞
7月19日	香川県	西日本放送(ラジオ)	地方	節水チャレンジについて
7月26日	栃木県	栃木放送(ラジオ)	地方	県政ナビ「水の日・水の週間」
7月30日	神奈川県	日本水道新聞	全国	横浜市 水の日広く啓発
7月31日	神奈川県	タウンニュース	地方	秦野名水フェスティバル
7月31日	岐阜県	岐阜新聞	地方	地下水の重要性伝える ～あす「水の日」県がパネル展～
8月1日	富山県	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	福井県	日刊県民福井	地方	御清水にちょうちん
8月3日	福井県	福井新聞	地方	絵提灯 御清水に風情
8月3日	徳島県	徳島新聞	地方	打ち水ですずしくな一れ
8月4日	愛知県	中日新聞	地方	歴史や役割を紹介 県内の農業用水展
8月5日	愛知県	日本農業新聞	地方	「あいちの農業用水展」開催中
8月8日	富山県	富山新聞	地方	県中学生水の作文入賞の8人たたえ
8月9日	福井県	福井新聞	地方	児童ら多様な生物触れた
8月11日	愛媛県	愛媛新聞	地方	川や森で生き物観察 松山石手川上流域 親子ら水源地保全学ぶ
8月11日	鹿児島県	南日本新聞	地方	水資源大切さ 実験通じ体感
8月12日	静岡県	静岡新聞	地方	水の週間作文 最高賞に2作品 県庁で表彰式
8月15日	愛媛県	愛媛新聞	地方	松山市・『水』への絵はがき入賞者
8月20日	兵庫県	産経新聞	地方	打ち水で涼 尼崎でイベント
8月20日	兵庫県	毎日新聞	地方	打ち水 つかの間の涼
8月21日	福井県	福井新聞	地方	大野の水生生物 希少種など紹介
8月22日	福井県	日刊県民福井	地方	大野の水生生物知って
8月25日	岩手県	盛岡タイムス	地方	次世代の活動支援推進へ 水資源功績者表彰 御所湖の清流を守る会
8月25日	兵庫県	神戸新聞	地方	涼しくなあれ 子どもらが打ち水
8月26日	岩手県	岩手日報	地方	御所湖の環境保全40年「守る会」大臣表彰 清掃活動やダム見学会
8月27日	大阪府	水道産業新聞社	全国	コロナ対策でキャンペーン 堺市上下水道局オリジナル給水車でweb展
8月28日	山形県	山形新聞	地方	水回り任せて(天童・管工事組合青年部が無料点検)
8月29日	福井県	毎日新聞	地方	のぞいて、学んで
9月3日	福井県	日刊県民福井	地方	大野の御清水 建屋彩るちょうちん一新

第44回水の週間 新聞等報道状況

月 日	都道府県	新聞名等	地域	見 出 し
9月4日	静岡県	静岡新聞	地方	水資源の大切さ学ぶ 千本小で出前教室 4年生が実験を通し
9月19日	福井県	福井新聞	地方	城下町大野で”写真映え”
10月5日	埼玉県	埼玉建設新聞	地方	中学生水の作文入賞者が決まる
10月6日	愛知県	東愛知新聞	地方	豊川の生徒が農水大臣賞 全日本中学生水の作文コン 南部中3年の河邊さんに栄誉
10月6日	滋賀県	毎日新聞	全国	水の作文コン 入選者が決定
10月6日	熊本県	熊本日日新聞	地方	全日本中学生水の作文コンクール清水さん最優秀賞
10月7日	京都府	京都新聞	地方	水の恵み 作文に込め受賞
10月7日	京都府	あやべ市民新聞	地方	柏原葵さん(上林中1年)総理大臣賞
10月8日	佐賀県	唐津市有線テレビジョン	地方	全日本中学生水の作文コンクール入選！
10月9日	佐賀県	唐津ケーブルテレビ	地方	海青中の書いた作文が全国入選
10月9日	佐賀県	西日本新聞	地方	全日本中学生水の作文コンクール 唐津・海青中 松永さん入選
10月10日	佐賀県	佐賀新聞	地方	中学生水の作文コンクール 松永さん(海青中3年)全国入選
10月10日	佐賀県	毎日新聞	地方	松永梨奈さん(唐津市立海青中)入選 全国水作文コン
10月13～15日	滋賀県	京都新聞	地方	滋賀県中学生水の作文コンクール(最優秀賞1作品、優秀賞2作品の全文掲載)
10月15日	兵庫県	神戸新聞	地方	県の「水の作文」 永田さん最優秀
10月15日	宮崎県	宮崎日日新聞	地方	全日本中学生「水の作文」コン 大城さん(宮崎西高附属3年)優秀賞
10月16日	神奈川県	神奈川新聞	地方	県最優秀賞 丸岡さん表彰 中学生水の作文コン
10月18日	熊本県	熊本日日新聞	地方	「くまTOMO賞」受賞者紹介
10月21日	神奈川県	神奈川新聞	地方	県最優秀賞 丸岡さん表彰 中学生水の作文コン
10月21日	愛媛県	愛媛新聞	地方	全日本中学生水の作文コンクール 井上さん(松山・愛光中)優秀賞 安全な水守る行動誓う
10月23日	宮崎県	宮崎日日新聞	地方	ひと「全日本中学生水の作文コンクール」で優秀賞に輝いた 大城冴和さん

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6. 26)

(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

(水循環政策本部発足 H26. 7. 1)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会（国土庁会議室） （ポスター、パンフレット） ○第 1 回水資源に関するシンポジウム （10. 25）	・水の週間閣議了解（5. 31） ・国連水会議（3. 14 ～ 25） ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地域の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だナ	○ウォーターフェア’ 78 （銀座 松屋）	・水の週間実行委員会設立 （ 5. 8、11 団体） ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地域の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかに私 たちの智慧ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア’ 79 （船の科学館） ○第 1 回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか（福岡市）	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア’ 80 東京 （科学技術館） ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しましよ ういのちの水・水とのであひ。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア’ 81 東京 （科学技術館） ○第 1 回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア （兵庫県）	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア’ 82 東京 （科学技術館） ○第 2 回水資源に関するシンポジウム （8. 3 ～ 5）	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア’ 83 東京 （科学技術館）	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア’ 84 東京 （科学技術館）	・水資源局から水資源部へ改組 （国土庁） ・国際河川博覧会（アメリカ・ニュー オリンズ）
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア’ 85 東京 （科学技術館） ○ウォーターフェア KOBE （神戸市）	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア’ 86 東京 （科学技術館） ○ウォーターランド（新宿副都心） ○第 1 回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン（宮ヶ瀬ダム）	・水資源世論調査 ・冬期渇水（西日本）
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア’ 87 東京 （科学技術館） ○第 3 回水資源に関するシンポジウム （浩宮殿下による特別講演） （8. 4 ～ 5）	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画（ウォーターブ ラン 2000）策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア’ 88 東京 （科学技術館） ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア’ 89 東京 （科学技術館）	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成 2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア’ 90 東京 （科学技術館）	・人と水とのかかわり世論調査 ・首都圏渇水

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア’ 91 東京 (東京都庁)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア’ 92 東京 (東京都庁) ○第 4 回水資源に関するシンポジウム (10. 24)	・環境と開発に関する国連会議
平成 5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないから ね	○ウォーターフェア’ 93 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定 (3. 22)
平成 6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア’ 94 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成 7 (19)		大切に使おう、かけがえない 「水」	○ウォーターフェア’ 95 東京 (墨田区役所)	
平成 8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、20 年。	○ウォーターフェア’ 96 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成 9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア’ 97 東京 (科学技術館) ○第 5 回水資源に関するシンポジウム (8. 4 ～ 5)	
平成 10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア’ 98 東京 (科学技術館)	
平成 11 (23)		「当たり前」ではありません！	○ウォーターフェア’ 99 東京 (科学技術館) ○水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画(ウオー タープラン 21)策定 ・小渕内閣総理大臣記念式典臨席、展 示会視察
平成 12 (24)		水の力	○ウォーターフェア 2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成 13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 01 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足 (1. 6) ・全国的な渇水
平成 14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 02 東京 (新宿パークタワー) ○第 6 回水資源に関するシンポジウム (8. 2 ～ 3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 03 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成 16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’ 04 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成 17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’ 05 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成 18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア’ 06 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・17 年末に全国で大雪、降水量首都圏 は平年並み
平成 19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア’ 07 東京 (科学技術館) ○第 7 回水資源に関するシンポジウム (8. 3 ～ 4)	・春から 6 月にかけて西日本を中心に少 雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇 水、夏に記録的高温
平成 20 (32)		水がはぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア’ 08 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成 21 (33)		将来を安全・安心に暮らすた め、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア’ 09 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的 な豪雨
平成 22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア’ 10 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成 23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機 に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい (科学技術館)	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏
平成 24 (36)		水の恵みを未来に～健全な水循 環の再生を目指して～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (科学技術館)	・平成 24 年 7 月九州北部豪雨 ・利根川水系渇水 ・全国で節電
平成 25 (37)		安全・安心な水のために	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (発明会館)	・全国的な渇水 ・全国で記録的な猛暑、局所的な豪雨

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 26 (38)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（砂防会館） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本法施行及び水循環政策本部設立 ・水循環基本法における「水の日」の法定化 ・平成 26 年 8 月豪雨（広島、京都など） ・御嶽山噴火
平成 27 (39)		みんなで考えよう！水のこと！	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（国連大学） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本計画閣議決定（平成 27 年 7 月） ・平成 27 年 9 月東北・関東豪雨
平成 28 (40)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（科学技術館） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・皇太子同妃両殿下 水を考えるつどい行啓 ・全国的な渇水
平成 29 (41)		水を探そう	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（イイノホール） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・平成 29 年 7 月九州北部豪雨 ・全国的な渇水
平成 30 (42)		水は、大切でした。	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（イイノホール） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・平成 30 年 7 月豪雨
令和元 (43)		私たちを支える水。 考えてみませんか。 訪ねてみませんか。	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（パークタワーホール） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・全国的な渇水 ・令和元年 8 月前線に伴う大雨による土砂災害発生（佐賀県、長崎県など） ・令和元年 9 月台風 15 号による住家被害、大規模停電、断水（千葉県） ・令和元年 10 月台風 19 号による堤防決壊（東日本）
令和 2 (44)		ポケットモンスターのシャワーズも 8 月 1 日「水の日」を応援しています。	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（Web 配信）	・世界中に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が蔓延 ・新たな「水循環基本計画」が閣議決定（令和 2 年 6 月） ・令和 2 年 7 月豪雨

※ 全日本中学生水の作文コンクール及び水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和 53 年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和 53 年 5 月 8 日設立総会)

かつて、ケネディは「21 世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといつてよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるところとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和 52 年に 8 月 1 日を「水の日」とし、この日から 1 週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げることが必要である。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会組織

会長 虫明功臣

令和 2年10月 1日現在

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員
全 国 水 土 里 ネット	専務理事	所 長
造 水 促 進 セ ン タ ー	理 事 長	専務理事
日 本 治 山 治 水 協 会	会 長	専務理事
日 本 河 川 協 会	会 長	常務理事
日 本 工 業 用 水 協 会	会 長	専務理事
日 本 水 道 協 会	理 事 長	調 査 部 長
全 国 簡 易 水 道 協 議 会	会 長	事 務 局 長
日 本 下 水 道 協 会	理 事 長	常務理事
日 本 ダ ム 協 会	会 長	専務理事
利根川・荒川水源地域対策基金	理 事 長	事 務 局 長
	常務理事	
日 本 水 フ ォ ー ラ ム	代 表 理 事	代 表 理 事
土 木 学 会	会 長	専務理事
農 業 農 村 工 学 会	会 長	専務理事
東 京 大 学	名 誉 教 授	
水 資 源 機 構	理 事 長	総 務 部 長
	理 事	
	◎ 赤崎 暢彦	
	室 本 隆 司	岡 本 裕 也
	山 本 和 夫	大 熊 那 夫 紀
	山 口 俊 一	津 元 頼 光
	松 田 芳 夫	萩 原 寿 夫
	正 司 尚 義	岩 井 昭 則
	吉 田 永	玉 野 井 晃
	小 田 祐 士	小 平 鉄 雄
	岡 久 宏 史	成 田 儀 範
	宮 本 洋 一	工 藤 啓
	藤 井 友 竝	明 戸 邦 浩
	渡 邊 和 足	
	竹 村 公 太 郎	竹 村 公 太 郎
	家 田 仁	塚 田 幸 広
	平 松 和 昭	小 泉 健
	虫 明 功 臣	
	金 尾 健 司	
		上 村 信 幸

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員
国 土 交 通 省（水 資 源 部）	—	大 臣 官 房 審 議 官
		水 資 源 政 策 課 長
		水 資 源 計 画 課 長
		水 資 源 政 策 課 課 長 補 佐
東 京 都（都 市 整 備 局）	—	局 長
		都 市 づ く り 政 策 部 長
		都 市 づ く り 政 策 部
		水 資 源・建 設 副 産 物 担 当 課 長
		◎ 森田 健児
		藤 川 眞 行
		竹 島 陸
		富 田 学
		上 野 雄 一
		小 野 幹 雄
		増 井 潔

◎運営委員長 ○運営副委員長

第44回「水の週間」ポスター

8月1日は
水の日

水循環基本法で、8月1日を「水の日」と定めています。
8月1日から8月7日は「水の週間」です。
私たちの水のこと、考えてみませんか。

ポケットモンスター
No.134 シャワーズ
タイプ みず とくせい ちょすい

日本の水って
イイネ

2020.8.8*
「水の天使」
中村 真壁

Wonderful Water of Japan

日本の良質な水は、人々の努力による水循環マネジメントに支えられています。

「水の日・水の週間」関連情報はウェブサイトへ
<http://mizunohi.jp> 水の日 検索

【主催】水循環政策本部、東京都、水の週間実行委員会ほか 【後援】文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省ほか
【水の日・水の週間】に関する情報はホームページへ（環境省）※水の上の週報、水の日・水の週間

「健全な水循環」
ロゴマーク

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心 11-2

独立行政法人水資源機構 総務部広報課内

TEL 048-600-6513 FAX 048-600-6510